判決年月日	平成16年9月8日	担当部	東京高等裁判所 知的財産第4部
事件番号	平成15年(行ケ)27号		
<p>拒絶審決の取消訴訟において、審決が進歩性欠如の理由として引用した主たる公知文献記載の発明ではなく、審決でもその内容が認定され理由の一部となった別の公知文献記載の発明との対比に基づき本願発明の進歩性が否定されるとして、審決を支持した事例</p>			

「変調方式とそれを用いた無線通信システム」なる本願発明(平成10年特許願第18593号)は、公知文献である引用例1に記載の発明及び周知技術に基づいて当業者が容易に発明をすることができたものであるから、進歩性を欠くとして拒絶査定を支持した審決(不服2001-11612号)の取消訴訟において、引用例1記載の発明と本願発明との間の相違点の容易想到性が判断されるに際し審決で認定された周知技術の存在を裏付ける公知文献である引用例2に記載の発明との対比において、本願発明との間の相違点の有無と、その相違点についての容易想到性の有無が審理された結果、本判決は、本願発明は引用例2に記載の発明及び周知の技術事項から容易に想到することができたと判断して、審決を支持した。